

港中だより

伊勢市立港中学校 特別号

R4. 3. 8

校長 金森 晃生

令和3年度 第75回卒業証書授与式

3月7日、伊勢市立港中学校の令和3年度 第75回卒業証書授与式が行われました。3年生にとっては、中学校3年間、義務教育9年間を終える最後の授業でした。3年生のみなさんはすばらしい主役となり、胸を張って、立派に港中学校を巣立っていってくれました。たいへん素晴らしい卒業式でした。3年生のみなさんの新たな旅立ちを、私は大いに期待しています。式の中で、私が卒業生に話したこと（式辞）を、全部ではありませんが在校生のみなさんにも紹介します。また、卒業生が在校生のみなさんに残してくれた、答辞も紹介します。ぜひ読んでください。（紙面の都合上、文字が小さく、読みづらくもありません）

式辞

入学式の時にみなさんには「学ぶこと」「夢を持つこと」「思いやりの心を意識すること」「命を大切にすること」の四つを話しました。これまでの三年間、日々の学校生活や部活動、また修学旅行、運動会、文化祭などの学校行事といった多くの思い出の中に、先ほどの四つのごことがたくさん入っていることと思います。

この三年間で、世界は新型コロナウイルスの影響を受けました。誰も経験したことのない地球規模のパンデミックとなり、世界は大きく変わりました。そして、みなさんの中学校生活にも大きな影響を及ぼしました。二年生からは、感染予防対策をしながら、学習や行事など、多くの制限や守るべきことが増えました。そのような中で、みなさんは、どのようにすればよりよくなるかを考え、積極的に行動できるようになりました。工夫したり、新しいことにチャレンジしたり、発想を変えたりしながら最上級生としてよく頑張ってきました。また、自宅でオンライン授業を受けながら、意見交流をしたり、タブレットでデータのやり取りや共有したりすることができるようになりました。大人のテレワークと同じような力がついてきました。

これからはさらに、科学や技術が進歩し、AIもさらに発達して、社会はスピードを上げて変化していくことと思います。その中でも、コロナ禍で身につけたことは、必ず未来を生き抜く力になっていくと思います。

そして、何よりも、「思いやりの心」が、今以上に必要になると思います。新型コロナウイルスは発生から二年経った今も感染が収まらず、また、報道にあるように、世界では、国同士の争いも起こっています。私たちは人類史上最大の危機の中を生きているのかもしれませんが、しかし、どのような時代にあっても「思いやりの心」で、相手の気持ちを考えて、行動することが、人としての価値を証明してくれると私は思います。

みなさんには、優しく、相手のことを考えることができる社会、誰もが、安心して過ごせる社会をつかってほしいと強く願います。みなさん一人一人が、「思いやりの心」を持ち続け、夢をかなえ、幸せに生き、自分も他の人も大切にできる、そんな社会をつくる担い手に、ぜひなってください。

今日の門出にあたり、これまでお家の方や友だちや先生をはじめ、多くの人に支えられたこと、感謝することも忘れないでください。これからは一人ひとりが自分の夢の実現のため、それぞれの道を切り開き、歩んでいくことになるでしょう。道は平たんな道ばかりではありません。でも、あきらめずに努力し続けてください。

そして、港中学校で一緒に学んだ仲間を大切に、育ててくれたふるさとや家族を大事に思い、自信をもって、一歩一歩進んでください。みなさんの健康とさらなる活躍を願い、式辞とします。

答辞

先日の寒さが嘘のように、春の暖かい日差しが私達を照らし始め、春を感じられる今日この良き日に、私達八十四名は旅立ちの日を迎えました。新型コロナウイルスの影響があり、とても大変な時期の中、私達のために、卒業式を行っていただき、卒業生一同を代表し、厚くお礼申し上げます。

三年前の春、私達はこれから始まる中学校生活への緊張や不安を抱き、一方で、あたらしい生活への楽しみや期待感も抱きながら、この港中学校へ入学したことを、昨日のこのように思い出します。

中学生となった私達に先輩方は優しく学校のことについて教えてくださいました。そのような姿に、私たちは憧れました。

学年が二年生に上がる頃に、新型コロナウイルスが流行し始めました。学校は、二か月近く臨時休校しました。しばらく学校に来ることができなくなり、友達と会えない寂しさや、学習内容の遅れへの不安などで、いっぱいでした。ようやく休校が明けても、様々な行事がなくなったり、規模が縮小されたりしました。仕方がないこととはわかっていますが、とても残念でした。

二年生になり、私達は初めてできた後輩に、先輩として学校生活や部活動のことなどを教える立場になりました。最初は教えることに戸惑いもありましたが、自分たちに教えてくれた先輩方のように、一生懸命教えたことを覚えています。部活動では、日々、仲間たちと切磋琢磨して、暑い日も寒い日も練習に励みました。時には、友達との意見が合わず、壁にぶつかることもありましたが、何度も話し合い、仲間と力を合わせて協力し、乗り越えてきました。二年半の間、一生懸命取り組んできた部活動は、私達の楽しみでした。

そして、私達は最高学年の三年生になりました。最高学年としてのプレッシャーや不安もありましたが、ひとり一人が、より良い学校にしようと、高い意識を持って行動することができました。また、三年生になり、受験というものをより一層身近に感じるようにもなりました。そして、中学校生活全てのことに「最後」という言葉が付くことになり、私達は寂しいような悲しいような複雑な気持ちになりました。

そうして迎えた、中学校生活最後の運動会。コロナ禍で開催されるかどうかわかりませんでした。規模を縮小して、応援は拍手だけという制限がある中で開催することができました。他学年の種目は見ることはできませんでしたが、全校生徒で取り組んだ港中ソーランや選抜リレーは行うことができました。港中ソーランでは、三年生にとって最後なので、悔いの残らないように一生懸命練習をしました。チームメイトの後輩たちにもわかりやすく教えることを心掛けました。そうして迎えた本番では、みんな精一杯の声を出して、最高のソーランになりました。この運動会を通して、仲間との絆がより一層深まりました。

中学校生活最大の行事である修学旅行。コロナ禍で修学旅行に行けなくなると思っていました。先生方のおかげで、一泊二日で和歌山県へ行くことができました。那智大社では、四百六十三段の階段を登り切り、朱色に輝く那智大社の社殿と境内から眺めた壮大な那智の滝の美しさは忘れられません。くじら博物館では白いイルカやコピレコンドウという大きなクジラを見ることができました。クジラショーでは、三頭のクジラが次々に空高く跳んで、その迫力は今でも心に残っています。ジオパークでは、和歌山県の地形や大地の創造、歴史や文化について学びました。エネギーランドでは、巨大迷路や有名な登れない階段などとても不思議な体験をしました。熊野古道センターでは、自分だけの箸づくりに没頭しました。就学旅行を通して、仲間と一緒に楽しみ、協力をして今まで以上に仲を深めることができました。最高の二日間でした。

思いを込めた合唱発表会。今年は同学年だけの合唱発表会でしたが、ひとり一人が思いを込め、どのクラスも一生懸命声を出して、心に響く素晴らしい合唱でした。この合唱発表会を通して、よりクラスの団結力が強まりました。

私は後期の生徒会長になりました。会長としてみんなの中心となり、この学校を良くできるのかと、プレッシャーがありました。生徒会本部の仲間や、生徒のみんな、そして先生方の協力により、ここまでやり遂げることができました。私は会長をして、何事も一人だけではなく、みんなと協力することでやり遂げることができると実感しました。この学校を良くしようと動いても、自分だけではとうていできないこともあります。そういう時に、他の人と協力することで、できないこともできるようになります。港中学校は、とても元気でやる気のある学校だと思います。これからも元気でやる気を大切に、より良い港中学校になることを願っています。

この三年間、未熟だった私達を厳しい言葉や優しい言葉でここまで成長させてくださった先生方、本当にありがとうございます。悩んでいる時には、一生懸命話を聞いてくださり、私達に寄り添ってくださいました。何より、人を思いやる「思いやりの心」の大切さを教えてくださいました。友達を思いやり、周りの人を思いやることの大切さを。先生方が教えてくださったことを心に刻み、一生懸命生きていきます。

そして、この十五年間、私達を一生懸命育ててくれた家族のみんな、たくさんわがままを言ったり、言うことを聞かなかったりして心配や迷惑をかけました。それでも、いつでも一番に私達のことを考えて、寄り添ってくれて本当にありがとうございます。これからも心配や迷惑をかけると思いますが、温かい目で見守ってください。一番の味方でいてくれて、ありがとうございます。

今年も出席できなかった在校生のみなさん。私達は先輩として憧れの存在になれていたでしょうか。頼りないところはなかったでしょうか。先輩として足りないところはあったと思いますが、私達なりに後輩のみなさんの憧れの存在になれるように努力してきました。今度は在校生のみなさんがこの港中学校を引っ張っていき、より良くしていく番です。不安になることもあると思いますが、そんな時は、失敗を恐れず、仲間と協力して前へ突き進んでください。

そして、今日までたくさん笑い合ったり、喧嘩をしたり、授業を受けたりしてきたみんな。春からは離れ離れになり、それぞれの道を進んでいきます。たとえ大きな壁にぶつかっても、決して諦めずに前へ進み続けていきましょう。今までみんなと過ごしてきた日々は宝物です。いつまでも忘れません。本当にありがとう。（卒業生代表 谷口大和）